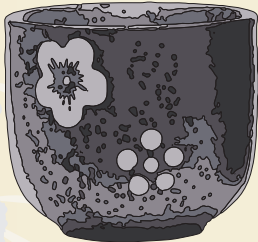


# 株主通信



さがびより

The SAGA認定酒



有田焼

ヒヨクモチ

日本の  
特産品  
佐賀県編



詳細は  
10ページへ！

木徳神糧は、コメビジネスを通して国内のみならず、世界中の消費者に日本米、日本食の素晴らしさを発信し、健康で楽しいライフスタイルの実現をサポートします。

## 企業価値

木徳神糧グループは、次のことに価値をおきます。

- 常にお客さまのニーズに応えます。
- お客さま、お取引先、株主、従業員、地域社会など、あらゆるステークホルダーとの信頼関係を大切にします。
- 社業の発展を通じて社会に貢献します。

## 企業理念

- 誠意と感謝の気持ちを持つ企業であり続けます。
- より高いクオリティを追求する企業であり続けます。
- 新しい価値を創造する企業であり続けます。



### 米穀事業

家庭用・業務用の精米の製造販売、玄米の販売を行い日本の主食であるコメの安定供給に全力を注いでいます。

### 食品事業

「つくば鶏」の生産・加工・販売及び輸入鶏内の販売、製菓及び加工食品用米粉、たんぱく質調整米の製造・販売を行っています。

### 鶏卵事業

鶏卵、鶏卵加工品を販売。鮮度管理に万全を期し、農場とパック卵工場を直結させた物流体制をとっています。

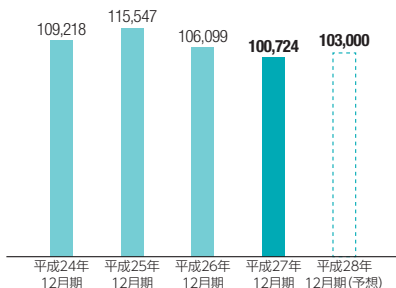
### 飼料事業

国内配合飼料メーカー等への糟糠類、輸入牧草などの飼料及び飼料原料の販売を行い、畜産業の発展に貢献します。

# 連結財務ハイライト

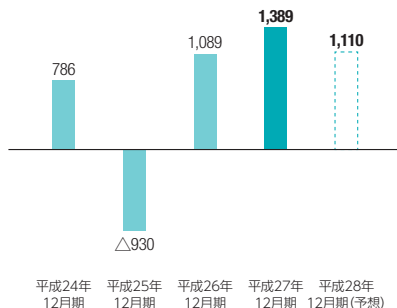
## 売上高

(単位:百万円)



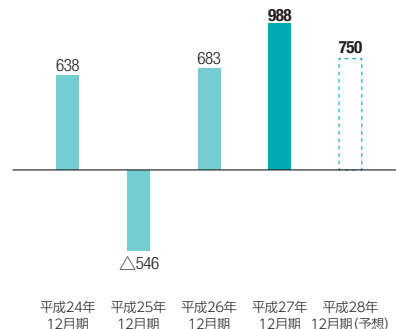
## 経常利益

(単位:百万円)

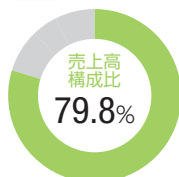


## 当期純利益

(単位:百万円)



## 米穀事業



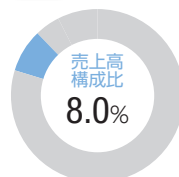
売上高 **80,353**百万円  
(前年同期比5.3%減)

営業利益 **1,829**百万円  
(前年同期比9.1%増)

- 国内市場の需給緩和による販売競争の激化で平成26年産米販売価格が前年同期比で大幅下落
- 仕入手法の多様化によるコストダウン、在庫管理等による製販コストの削減により増益



## 食品事業



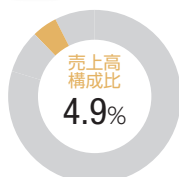
売上高 **8,073**百万円  
(前年同期比5.8%減)

営業利益 **35**百万円  
(前年同期は71百万円の営業損失)

- 平成26年6月末に撤退を完了した惣菜加工分野の売上高減少や穀粉販売の不振により減収
- 利益面では鶏肉を取り扱う子会社の経営再建が進展し黒字転換



## 鶏卵事業



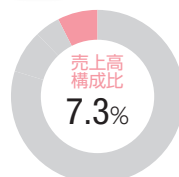
売上高 **4,966**百万円  
(前年同期比0.6%増)

営業損失 **14**百万円  
(前年同期は6百万円の営業損失)

- 特売企画の増加による一般卵の販売増、鶏卵相場が引き続き高水準で推移したことから微増収
- 仕入価格が上昇しているなか、ブランド卵の販売競争が激化し利益率が悪化



## 飼料事業



売上高 **7,331**百万円  
(前年同期比5.1%減)

営業利益 **296**百万円  
(前年同期比14.9%増)

- 穀類や糟糠類等の配合飼料原料の販売堅調も、牧草等の販売数量減少により減収
- 減収を上回る販売コストの削減により増益



中期3カ年経営計画3年目も、  
着実に事業モデルの変革を成し遂げ、  
新たな成長に向かう  
飛躍の1年としていきます。

代表取締役社長 平山 惇

**Q** 2015年12月期の業績について  
お聞かせください。

**A** 主力事業における利益の大幅増、経営再  
建を進めてきた鶏肉子会社の黒字転換も  
あり、全体としては評価できる1年になっ  
たと認識しています。

主力の米穀事業において、ミニマム・アクセス米の取扱いが大幅に増加したほか、卸業者向けの玄米販売や中食・外食向け業務用精米の販売強化により、販売数量は40万トン超と前年同期を大きく上回りました。しかしながら、国内市場の需給緩和の継続により販売競争が激化し、平成26年産米を中心に販売価格が前年同期比で大幅に下落したことにより、連結売上高は前年同期比5.1%減となる1,007億24百万円となりました。

利益面では、米穀事業における販売数量増加による利益拡大、仕入手法の多様化推進によるコストダウン、在庫管理の徹底を含めた製販コストの削減等が奏功し、増益となりました。加えて食品事業の不採算分野の改善が進み、黒字転換し、グループ全体の利益を押し上げました。この結果、営業利益は前年同期比22.4%増の13億85百万円と中期3カ年経営計画の目標値12億円を1年前倒しで達成することとなり、当期純利益は同44.6%増の9億88百万円と上場来の最高益を上げることができました。

米穀事業以外では、飼料事業は、配合飼料相場が値下げに転じ、また、牧草等の販売数量は減少したものの、穀類や糟糠類等の配合飼料原料の販売が堅調でした。米糠から米油を絞った

純国産の脱脂糠は当社の強みです。また、生糠の活用用途をきのこの培地へと広げ、重宝いただいています。食品事業は、前年6月に撤退完了した惣菜加工分野の売上高減少が響き減収となりましたが、鶏肉を取り扱う子会社の経営再建が進展し、黒字転換を果たしました。販売と管理を生産現場に近づけたことが効果を上げています。鶏卵事業は、ブランド卵の販売は低調であったものの、特売企画の増加により一般卵の販売は堅調に推移したこと、加えて鶏卵相場が前年同期より高い水準で推移したこともあり、売上高は微増となった一方で、仕入価格の上昇、ブランド卵の販売競争激化により、利益率が悪化する結果となりました。

Q

**2年目が終了した中期3カ年経営計画のここまでの手応えをお聞かせください。**

A

**次なる成長の土台作りとなる、3つの成長戦略すべてが着実に成果をあげつつあります。**

国内における家庭用の精米消費量が減少している中、現在、当社では、中食や外食向け販売の拡大、海外マーケットの開拓および海外生産量の増大、機能性食品をはじめとする付加価値商品の拡充という3つの方向性で、ビジネスの拡大を目指しています。この次なる成長の土台作りとして、現中期3カ年経営計画では、3つ

の成長戦略「広域卸の機能強化・仕入れルートの多様化」「日本米・ジャポニカ米市場の創造と開拓」「付加価値商品の拡大」を進めていますが、いずれも確度の高い手応えを感じています。

「広域卸の機能強化・仕入れルートの多様化」では、需要拡大が続く九州地区の新たな精米拠点として、昨年出資した「JA食糧さが」の設備の活用を開始しました。さらに、東北における供給体制をより強固なものとするため、同工エリアの精米工場への出資を検討しています。今後も日本全国に既存する精米工場の設備活用の取り組みを拡大し、全体の稼働率を向上させながら、広域卸として安定的かつ効率的な供給を担っていきます。

「日本米・ジャポニカ米市場の創造と開拓」は、ベトナムのアンジメックス・キトク社を中心とした取り組みが順調で、ベトナム産ジャポニカ米の販売量1万トン超を射程圏に捉える状況になってきています。また、気候条件により優良な米の収穫が期待できるベトナム北部のハノイに駐在員事務所を開設し、北部事業をスタートさせました。すでに、ジャポニカ米・コシヒカリの試験栽培も開始しており、初収穫は5月を予定しています。検討していたベトナム米穀卸AN DINH TECHNOLOGY社への出資による子会社化は見送ることとなりましたが、同社との良好

な関係は維持しています。現在のところ、独自路線でスタートし、ベトナム産ジャポニカ米のバリエーションを拡大していきます。北部でも日本式の乾燥設備等の導入を検討しており、乾燥・粳摺り後、玄米のままハイフォン港から第三国に輸出し、消費地で精米することで、精米したてのより品質のよい米を使っただけの体制にしていきます。日本米、ベトナム南部産ジャポニカ米、アメリカ米に、より日本米に近い品質のベトナム北部産ジャポニカ米が加わることで、多くのラインナップでお客様のニーズにお応えすることが可能となり、海外ビジネスはますます拡大に拍車がかかると見込んでいます。

「付加価値商品の拡大」では、機能性食品の1つ、酵素を用いたたんぱく質調整米「真粒米」の本格生産拠点の稼働に向け、台湾グリーン・バイオパーク(屏東県)での試験稼働を開始しました。来期以降の業績に寄与してくる見込みです。また、米卸だからこそ作ることのできる国産米糠だけで作った、当社オリジナル米油商品である「こめしぼり」の需要が拡大しています。体内の脂質を酸化から守るとされるビタミンEが多く含まれていることから、健康志向の方たちから支持を得て、非常に高いリピート購入率を誇る商品へと育ってきました。引き続き、健康や贈り物、またインバウンド需要といった、お米と

しては新しいニーズを喚起する切り口も視野に入れながら、付加価値を発揮する商品の拡充を目指します。

**Q** 株主の皆さまへのメッセージをお願いします。

**A** 意識変革が徐々に浸透を見せ、事業モデルに新しい変革の兆しが表れ始めた木徳神糧の今後の成長にご期待ください。

従来と同じ発想・仕事の仕方では、現状を維持することも難しく、新しい発想、新しいやり方、そして一人ひとりが常に新しい気持ちで仕事に取り組むことが必要です。中期経営計画の最終年となる2016年12月期は、特に、海外における生産から設備、販売まで一貫した展開を確実に拡大していくことに注力し、これにより、事業フィールドを拡大し、国内市場の縮小を補って余りある成長を実現させていく覚悟です。また、すべての成長戦略を着実に進めながら、2016年12月を新しい木徳神糧を作る初年度、大きな変革の年にしたいと考えています。「確かに、木徳神糧という会社は、様々な面で変わった」と言っただけのよう、確実に進化を遂げてまいりますので、株主の皆さまには末長くご支援いただきますようお願い申し上げます。

## 食品・米穀卸売業界初となる包括連携協定を締結

2015年10月に東京農業大学と農業分野国際協力を含めた、食品・米穀卸売業界初となる包括連携協定を締結しました。

東京農業大学とは、商品開発等の分野において既に相互協力を行っていますが、今後は当社がもつコメビジネスにおけるグローバルネットワークや機能性食品の製造販売ノウハウ、東京農大が



左：平山社長、右：高野学長

もつ農業に関する教育研究実績や海外教育研究機関との連携といった、互いの持つ資源の活用を通じた更なる相乗効果にも期待しています。

### 協定内容

- ① 農業及び関連産業の活性化に向けた連携
- ② 農業開発への支援を通じた国際協力活動における連携
- ③ 人材育成に関する連携
- ④ その他両者の協議により認める連携

## 国内外で活躍する人材の育成

当社では世界で活躍できる社員を育てるべく、外国語の語学力向上を目指しています。

2012年8月にスタートした中国語社内語学研修は、社外講師を招き、選抜された社員が毎週1回受講しました。

第一期は3年をかけ2015年5月に修了し、年末に成績優秀者と修了者へ社長表彰を行い、現在では第二期が2015年7月から新たなメンバーでスタートしています。

今後も社員が新しい世界に目を向け、常にチャレンジを忘れないようキャリアアッププランを整備し、社員の育成に力を入れてまいります。

真剣な表情で研修を受ける第二期生



年末に行われた優秀者への社長表彰

	平成23年 12月期	平成24年 12月期	平成25年 12月期	平成26年 12月期	平成27年 12月期
--	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------

## 経営成績 (単位:百万円)

売上高	100,745	109,218	115,547	106,099	100,724
売上総利益	7,468	6,750	4,990	7,028	7,249
営業利益	1,568	784	△ 912	1,131	1,385
経常利益	1,574	786	△ 930	1,089	1,389
当期純利益	351	638	△ 546	683	988

## 財政状況 (単位:百万円)

純資産	6,006	6,696	6,270	6,758	7,736
総資産	27,024	29,554	29,626	28,102	27,517

## キャッシュ・フロー (単位:百万円)

営業活動によるキャッシュ・フロー	1,461	△ 772	△ 1,634	3,612	1,430
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 348	△ 117	△ 696	△ 544	△ 679
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 26	445	1,877	△ 2,697	△ 782

## 1株当たりデータ (単位:円)

当期純利益	41.49	75.29	△ 64.46	80.56	116.54
純資産	659.04	744.27	696.00	780.58	893.96
配当金	8.0	6.0	6.0	10.0	10.0

## 主要経営指標 (単位:%)

自己資本比率	20.7	21.4	19.9	23.6	27.6
自己資本利益率 [ROE]	6.5	10.7	△ 9.0	10.9	13.9
配当性向	19.3	8.0	—	12.4	8.6



# 会社概要 (平成27年12月31日現在)

## ● 会社概要

商号 木徳神糧株式会社

事業内容 米穀事業、飼料事業、海外事業、コメ加工食品事業

本店所在地 〒104-0061 東京都中央区銀座7-2-22

本社所在地 〒132-0011 東京都江戸川区瑞江4-44-17  
TEL : 03-5636-1501 (代表)  
FAX : 03-5636-1601

資本金 5億2,950万円

従業員数 246名(臨時雇用者を除く)

ホームページ <http://www.kitoku-shinryo.co.jp/>

## 株式情報

### ● 株式の状況

- (1) 発行可能株式総数 30,000,000株
- (2) 発行済株式の総数 8,530,000株
- (3) 株主総数 1,684名
- (4) 大株主

株主名	所有株式数	持株比率
木村 謙三	405千株	4.77%
濱田精麦株式会社	362	4.26
木村 良	355	4.18
株式会社三菱東京UFJ銀行	300	3.53
株式会社神明ホールディング	247	2.91
木村 友二郎	235	2.77
稲垣 辰彌	230	2.71
水野 正夫	228	2.68
木徳神糧従業員持株会	197	2.33
株式会社三井住友銀行	186	2.19
農林中央金庫	186	2.19

(注) 1. 持株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。  
2. 持株比率は、自己株式(48,896株)を控除して計算し、小数点第3位を切り捨てて表示しております。

## ● 役員 (平成28年3月29日現在)

### 取締役

取締役会長 木村 良  
代表取締役社長 平山 惇  
取締役専務執行役員 三澤 正博  
取締役常務執行役員 天川 誠  
取締役常務執行役員 鎌田 慶彦  
取締役常務執行役員 稲垣 英樹  
取締役常務執行役員 石田 俊幸  
取締役執行役員 竹内 伸夫  
取締役執行役員 竹田 光男  
取締役(社外) 秋岡 栄子

### 執行役員

執行役員 大橋 正博  
執行役員 岩苔 永人  
執行役員 家辺 義之  
執行役員 石森 好宏  
執行役員 管 益成  
執行役員 山田 智基

(注) 執行役員については、平成28年4月1日に就任となります。

### 監査役

監査役(常勤) 伊豫田直記  
監査役(社外) 杉野 翔子  
監査役(社外) 福田 真也

### 新任取締役のご紹介 あきおか 栄子

#### (生年月日)

昭和31年11月26日

#### (略歴)

昭和55年4月

(株)日本長期信用銀行  
(現(株)新生銀行) 入行

平成22年4月

上海国际博览会日本産業館館長

平成25年12月

ミラノ国際博览会日本館基本計  
画策定委員

平成26年4月

静岡県通商担当補佐官(現任)

## 株主メモ

事業年度 1月1日から12月31日まで

定時株主総会 毎年3月に開催いたします。

基準日 定時株主総会については12月31日、その他必要  
があるときはあらかじめ公告する一定の日

配当金受領株主確定日 12月31日及び中間配当金の支払を行うときは  
6月30日

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号  
TEL 0120-232-711 (通話料無料)

上場証券取引所 株式会社東京証券取引所

公告方法 日本経済新聞

# 株主様インフォメーション

## 株主優待

1,000株以上ご所有の株主の皆様には株主優待品を贈呈いたしております。

### 6月末現在の株主様

- 1,000株以上2,000株未満 ▶ 2,000円相当の米穀製品
- 2,000株以上 ▶ 4,000円相当の米穀製品等※

### 12月末現在の株主様

- 1,000株以上 ▶ 3,000円相当の米穀製品

※うち2,000円相当は「切り餅」を12月中頃までに贈呈いたします。

## ポイント1

年2回の贈呈

12月末現在の株主の皆様

▶ 3月頃発送

6月末現在の株主の皆様

▶ 9月頃発送

## ポイント2

当社米穀製品をお届けします。



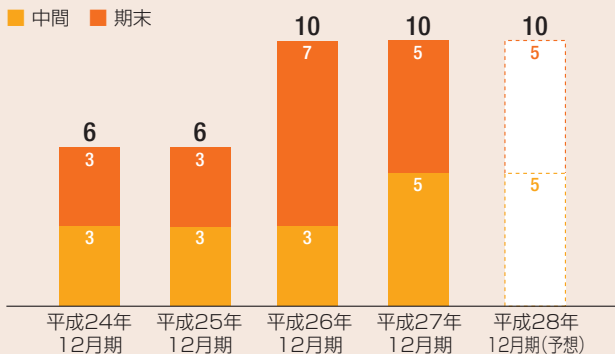
※ 優待内容や商品デザインは、変更する場合があります。

## 配当金

当社は、株主様に対する利益還元を重視する一方、安定的な経営基盤確保のため、内部留保のより一層の充実を目指し、安定的な配当の継続を業績に応じて維持することを基本方針としております。

### ■ 1株当たり配当金の推移

単位：円



## IRカレンダー

当社決算発表等に関する上半期の予定を掲載しております。



### 株主アンケートにご協力下さい

株主の皆様のお声から今後の活動に反映させていただくため、アンケートを実施しております。同封のアンケートハガキにご記入の上、最寄のポストへご投函下さい。何卒ご協力をお願い申し上げます。



# 商品ラインナップ

お客様のニーズにお応えする商品を皆さまの食卓に。



※ 商品は予告なく取扱を終了する場合がございます。



昨年「JA食糧さが」に出資し、当社にも所縁のある佐賀県。そんな佐賀県の知らないお米にまつわる特産品をご紹介します！

## 1 さがびより

佐賀県農業試験研究センターが10年の歳月をかけて研究・開発したお米で、「米の食味ランキング」では5年連続「特A評価」を獲得しました。

## 2 有田焼

17世紀初頭に泉山で陶石が発見され、日本で初めて焼かれた磁器といわれています。製作は基本的に分業で、職人たちが伝統の技法を継承し、それぞれの工程を担っています。

## 3 The SAGA認定酒

佐賀県産原料100%や県内製造はもちろんのこと、専門家による味や香りなどの厳しい味覚審査をクリアした純米酒と本格焼酎です。

## 4 ヒヨクモチ

佐賀の肥沃な土壌に合った品種で、粘りが強く、炊いても硬くなりにくい特性を持ち、おこわや赤飯、お餅に最適なもち米です。





トップページ

より多くの方々に当社を理解していただけるよう、専用コンテンツ「1分で分かる木徳神糧」をはじめ、R情報やレシピ情報などホームページの充実を図っております。是非ご利用ください。



IR情報



1分で分かる木徳神糧

## 旬の食材を使ったレシピ

簡単料理  
メニュー

## エビとたけのこの蒸し豆腐

体に優しくちょっとしたおもてなしにも使えるうれしい一品

### 材料(2人分)

豆腐(絹ごし).....1丁	しょうが.....1/2片	水.....100cc
えび(殻をむいたもの).....100g	ごま油.....大さじ1	鶏ガラスープの素.....小さじ1/2
たけのこ(水煮).....70g	片栗粉.....大さじ1	薄口しょうゆ.....小さじ1/3
塩.....小さじ1/2	三つ葉.....少々	片栗粉.....小さじ1/2
長ねぎ.....10cm		しょうが汁.....小さじ1/2

- えびは背わたを取り、塩水で洗って水気をふき、粗みじん切る。たけのこは5mm角に切る。三つ葉は2cmの長さ切っておく。長ねぎとしょうがはみじん切りにする。豆腐は軽く水気をきり、手でくずしておく。
- ボウルに豆腐、えび、たけのこ、長ねぎ、しょうがを入れ、塩、ごま油を加えてよく混ぜる。これを薄くごま油(分量外)を塗った深めの耐熱容器に入れてラップをかけ、電子レンジ強で3分加熱する。
- その間にAの材料を合わせ、かけあんを作っておく。小鍋にすべての材料を入れ、中火にかけて混ぜながらとろみがつくまで加熱する。
- Aで加熱した豆腐を一旦取り出してひと混ぜし、さらに2分加熱。仕上げにBのあんをかけて三つ葉をちらす。

調理時間 15分  
カロリー 233kcal  
(1人分)



おもてなしにもピッタリ!

### Point

- 耐熱容器はそのまま食卓に出せるものを使うと便利です。